



「人と自然が向き合う中庭」と、分棟化された校舎 すべての命あるものが同じ目線にある

■作品の概要 環境・設備デザインの解説

「人と人、人と自然の共生の場」の創造

日本三景の天橋立を望む宮津湾に面した新校地への全面移転計画です。カトリック・ミッションの小規模女子高校として96年の歴史と伝統を築いてきましたが、新校舎を建設し、あわせて男女共学校への転換を図りました。

環境と生徒との関わりを重視する教育理念にもとづき、神によって創られたすべての命の営みが感じられる「人と人、人と自然の共生の場」となることを、先生方、施工者、設計者が三位一体となって目指しました。

「設備機器をなくすことから始めた」

□真の心の豊かさを求めた素朴な空間

先進の技術や設備に満たされた学校建築トレンドに対し、この校舎は、必要最小限の設備と、素朴なデザインにより「人と人、人と自然が向き合う場」となっています。設備機器のエネルギー効率を追求するのではなく、設備機器自体をなくすことから始めました。

□木造・平屋・2つの中庭・回廊

ほとんどの校舎は自然素材を生かした木造で、命あるものが皆同じ目線の中にあるよう平屋としています。自然の採光・通風などを最大限に活用した校舎は分棟化され、2つの中庭を囲みながら、回廊で結ばれています。

□建築概要

建築地 京都府宮津市獅子崎30
(関西電力宮津ガスタービン発電所跡地)
敷地面積 34,397.0㎡
構造規模 木造平屋建 (一部) 鉄骨造平屋建
建築面積 4,091.66㎡
延床面積 3,886.11㎡
設計施工 株式会社 竹中工務店
工期 平成14年3月19日～平成15年3月19日

■機能性・社会性・経済性について

・冷房は3室のみに、設備機器に頼らない建物。
設備機器の省エネルギー能力を追求するのではなく、設備機器をなくすことから始めた。冷房はほとんど無く3室のみ。自然採光の活用で照明器具を削減。

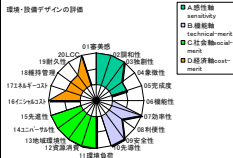
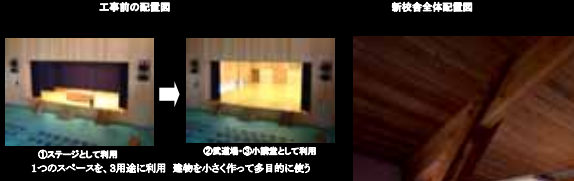
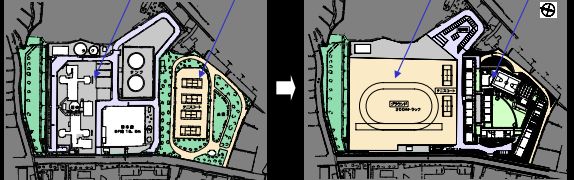
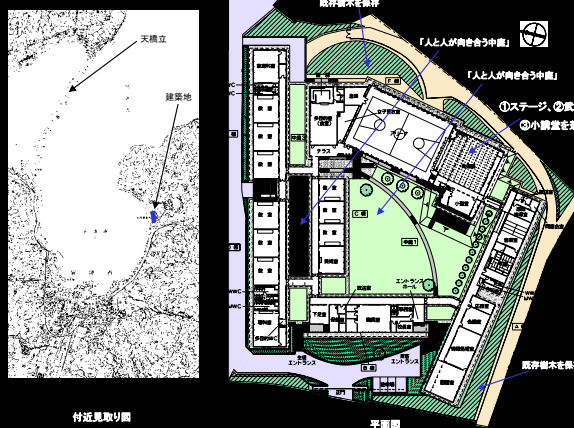
・自然エネルギーを生かし、感じることでできる木造校舎。
自然通風の確保、日射・雨・雪を受け止める深い軒、冬のパッシブソーラー、高断熱、高气密により、旧校舎からの再利用ストロブの灯油使用量が約半分に低減。

・小さく建てて大きく使う。必要以上を造らない。
1つのスペースを多目的に利用。建物を少しでも小さく造るから始めた。建物の分棟化により、様々な場面展開を生む空間を作りながら、法的義務の防災設備が少ない安全な建物。

・火力発電所を学校へ、もとの自然の姿に。
周辺集落の原風景との調和。緑豊かな山並みの景観を再生。既存樹木を保全。日本初の火力発電所解体工事。最終混合廃棄物をわずか259㊦に。地面を土に、雨水を大地に。透水性、保水性の高い地表仕上とし、地球環境への負荷を低減。

・古いものを捨てない、工事のゴミ・敷地の土を出さない。
既存校舎の家具の再利用。家具に合わせて建物設計。解体発電所コンクリートガラをグラウンド透水砕石として再利用。

・一番大切なことは、環境を守る人を育てること。
窓の開閉、照明、空調のこまやかな入り切りを生徒が日々行う。旧校舎時代より、一日も欠かさず全校生徒・教員が清掃が継続されている。環境への取り組みが、教育の中で常に励行され、慈しみの精神が受け継がれている。



評価項目	□評価項目に対する設計者のデザイン意図	□評価		評価項目数	換算係数(%)	評価点
		0	1			
A 感性軸 Sensitivity	01 美観性	0	2	20		20
	02 識別性	0	2	20		20
	03 独創性	0	2	5	10	80
	04 象徴性	0	1	10		10
	05 完成度	0	1	10		10
B 機能軸 Technical	06 機能性	0	0	0		0
	07 効率性	0	2	20		20
	08 利便性	0	1	5	10	70
	09 安全性	0	2	20		20
	10 先進性	0	2	20		20
C 社会軸 Social	11 環境負荷	0	2	20		20
	12 資源消費	0	2	20		20
	13 地域環境性	0	2	5	10	100
	14 エネルギー性	0	2	20		20
	15 先進性	0	2	20		20
D 経済軸 Cost	16 イノベティクス	0	2	20		20
	17 シンクコスト	0	1	10		10
	18 維持管理	0	1	5	10	70
	19 耐久性	0	1	10		10
	20 LCC	0	2	20		20
合計			32	32.0	32.0	

